

大学教育の質保証 ②

卒業生（卒業後3～5年） 調査から

高大接続・全学教育推進センター 市村 光之

高大接続・全学教育推進センターでは、大学教育の質保証のため、入学者選抜から卒業後まで学生にフォーカスしたリサーチ活動として《学生IR》を推進しています。今年度は、3年サイクルで卒業生および就職先を調査し教育改善に反映するしくみを構築し、その第一弾として卒業生アンケート調査を実施しました。卒業後3～5年の卒業生に、社会人経験を踏まえて、改めて大学教育の効果、今後の大学教育に求めることなどを収集しました。

本学卒業生は、社会人として 第一歩を着実に踏み出している

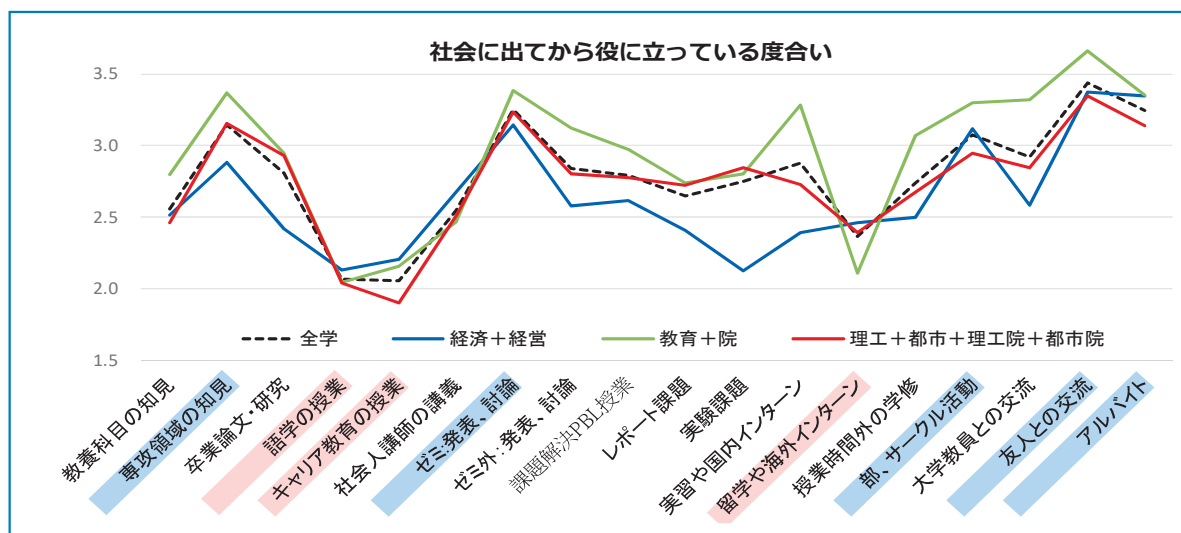
調査の対象は卒業後3～5年の学部卒業生（教育・理工系は修士卒含む）で、回答数は644（対象者5691名）で、回答率は11.3%でした。雇用形態は正社員が88%と世間一般と比べ正社員比率が高く、64%が大企業（従業員千名以上）に所属しています。大卒の3割が3年以内に初職を退職すると言われていたのですが、卒業後3～5年の対象者で転職経験者は16.3%に留まり、定着しています。概して社会人として第一歩を着実に踏み出しており、高等教育機関として、本学の社会的期待役割はある程度果たせていると判断できます。

社会に出て自覚する役立ち項目： 交友、ゼミ、アルバイト、専門知見、 部・サークル

本学で受けた教育・研究が社会に出てからどれくらい役立っているか、その度合いを4件法で訊ねた結果が下図です。役立ち度が高い（3.0以上）のは、スコアの高い順（青字）に①友人との交流（卒業後の繋がり、情報交換）、②ゼミ（発表・議論で鍛えた論理的思考力）、③アルバイト（仕事を垣間見られたこと）、④専攻領域の知見、⑤部・サークル活動（人間関係作り）などです。

一方、役立ち度が低い（2.5以下）のはピンクの項目で、語学は在学当時、まだ大人数クラスが多かったこと、キャリア教育もまだ未整備の状況だったことによるでしょう。留学や海外インターンが低いのは、学生時代の体験としては刺激になったが社会人になってからは直接役立っていないからと推測しています。

大学で役立つのはサークルや友人関係と一般によく言われますが、本学の卒業生は②④の学業部分の価値を自覚しています。自由記述で社会に出てから最も役立っていることを訊ねると、回答が多かったのはゼミ：126名、専攻領域の知見：98名、友人との交流：67名の順でした。卒業直前に毎年実施するアンケートではサークルや



友人関係を挙げる学生が多い傾向にありますが、学業を通じて得た知見や論理的思考力などの就業力は、仕事に携わって初めてその重要性が実感できるのかもしれません。以下、自由記述の一部を紹介します。

- ・研究とそのまとめ。仕事で開発をしているが、技術をしっかりまとめる力がついた：理工
- ・ゼミでのチームビルディング、課題解決型授業は仕事を進めていく上での良い経験になった：経営
- ・文献を読んだり、ディスカッションし、考えを整理し、レポートに仕上げていくという作業が、仕事でいろいろな人と関わりながらゴールする方法や思考の仕方に役立っている：教育
- ・論文を書くことから得られる、論理的に物事を組み立てる力と、それを言葉で表現する力：都市
- ・教養の重要性は、課題解決に直接活きるものではないため、卒業して何年も経ってから気づいた：教育

今後の大学教育： アクティブ・ラーニングによる実践的な授業が求められている

本学で学んだ総合的な満足度を5段階評価で訊ねました。下図は専攻ごとの平均値です。全学平均は3.62で、満足層65.9%、不満足層11.5%はまずまずの結果と言えます。ゼミを中心に、就業力を含め実践性のある教育・研究が実施されている点、多様な学生間交流もあり、卒業後も卒業生人脈が役立っている点が特に評価されています。

社会人としての経験を踏まえ、大学教育に求めることを自由回答で訊ねました。回答数では、講義中心からの転換：129名、社会で通用する実践力を養う教育：74名、グローバル対応力や国際交流：66名、学ぶ意義や社会との係わりの意識付け：39名の順です。知識の吸収だけで

なく、深く考える双方向性の授業（アクティブ・ラーニング）の強化が最も求められています。本調査では就業力の自己評価も実施しました。その結果、対人・対自己・対課題基礎力の3コンピテンシーのうち、対人（発信力、働きかけ力）と対課題（課題発見力）などで苦勞している現状が窺え、その裏返しのニーズとしてアクティブ・ラーニングを求める意見となったと考えられます。また、一部に質の改善が必要な授業もあり、教育改善には教員の意識改革、授業の質向上も不可欠との声もありました。自由記述の一部を紹介します。

- ・教員との議論やフィードバックを通じ、自分の方法論にする場を増やして欲しい。学問であっても社会であっても、それが生きぬく力になる：経済
 - ・社会に出て足りない能力として、質問力と自分の意見を言う力がある。少人数教育にして個々の授業への関心・関与を高める：理工
 - ・真面目でおとなしくキャラがない横浜国大生が人前で自分の意見を言う訓練を積ませる：都市
 - ・グローバル社会は単に英語ではなく、幅広い価値観を受け入れ、粘り強く進められるタフネスとフレキシブルな思考をどのように養うかが大切：経済
 - ・答えではなくて調べる方法を学ぶのが大学。社会に出て本当にそうだと思う。試行錯誤できる経験が沢山あるといい：理工
 - ・講義（特に専門）が社会に出てからどのように役に立つかを具体的にイメージできれば、学生の興味関心を高め自発的な学修につながると思う：都市
- 学業と社会との係わりを自覚させ主体的な学びを実現すること、アクティブ・ラーニングを推進することが、本学の教育目標であるイノベティブな人材を養成するカギになることが本調査から確認できました。

注）本調査の詳細な報告書をご覧になりたい場合は、高大接続・全学教育推進センターまでお問い合わせ下さい。

